

3 か～むの役割・意義について

支援・移行型グループホーム事業の意義

- 利用者にとって
か～むを利用することで家庭から離れることが、自立のきっかけになるとともに、様々な活動に組み、できることが増えていくことで、自己肯定感を持つことにつながっていきます。また、行動問題が減ることで、生活の場や活動が広がり、生活の質が向上していきます。
- 地域にとって
か～むの利用者が地域へ移行していくということは、「支援において細やかな配慮が必要な人」を地域全体で支えていくということにつながります。
- 支援者にとって
一日の一部だけではなく、生活全体を継続して支援することで、本人にとって望ましい生活とは何かを常に考えながら、生活全体をバランスよく支援していく視点・感覚が養われます。

地域生活支援拠点等整備事業（緊急一時事業）の意義

- 安心感の担保
この事業には、ご家族の方の「もしも」のときのセーフティネットとなる役割があります。
そのため、ご家族にとって安心感を担保できるということに大きな意味があると考えます。
- 地域資源の面的整備
緊急一時事業の利用に至ったケースを通して、浮かび上がってくる地域課題を整理し、フィードバックすることで、地域資源の面的な整備を進めていく役割も担っています。具体的なケースを通じたフィードバックを行えることが、この事業の中での意義だと考えます。

4 か～むでの実践を通して浮かび上がる強度行動障がい者支援についての課題

- 生活・活動の場の確保
か～む退所後は、地域で生活を送っていますが、地域移行した利用者のほとんどが市外の事業所を利用しており、市内に生活の場を確保することは困難な状況です。
- 支援者の確保・定着・育成
か～むに限らず、どの法人・事業所も人材確保に悩んでいるという話を耳にします。特に住まいの場である入所施設やグループホームは夜勤があるため敬遠されやすいようです。
- 個別支援と集団活動の兼ね合い
「特性上、集団の中での適応が難しい人」への資源が少ないため、地域移行が進まない大きな要因となっています。
既存にはない、人員配置や環境設定が手厚く、個別支援に対応した生活の場が必要です。
- 緊急時に対応できる場の不足
短期入所については、ニーズに対し、市内の事業所の数が少なく、特に連泊を受け入れている事業所はほとんどないのが現状です。
保護者からは、「強度行動障がいに対応できる事業所が少ないため、限られた事業所しか使うことができない。」という声も聞かれます。
緊急時に備え、利用できる事業所の数を増やしていく必要があります。

5 まとめ

強度行動障がいへの支援に対する課題を発信し、ネットワークを通じて解決を目指していくことが、か～むの役割の一つです。日々の支援を通して感じたことを伝え、行動障がいのある人と出会う場を作ることがネットワークづくりの第一歩になると考えます。